

# 検討会の趣旨等について

## 背景・目的

- 近年のサウナブームを背景に、これまでの浴場等に設置される固定式サウナとは異なる簡易な可搬式サウナ等を設置する事例が全国で増加している。
- こうした可搬式サウナ等については、一般的に専用の外装（テント・バレル等）とサウナストーブを組み合わせて使用するものであり、サウナ内の温度は固定式に比べて低い場合が多い。また、屋内だけでなく、屋外に設置されることも多いといった特徴がある。
- しかしながら、現行の消防法には可搬式サウナ等に対応した基準がなく、建物内に可搬式サウナ等を設置する場合、消防法上建築物の一部と見なすのか、什器等として扱うのか等、消防本部によってその取扱いが異なり、事業者が設置に当たって苦慮する場合がある。
- このため、本検討会では、可搬式サウナ等について安全性の検証を行い、その特性に応じた火災予防対策を検討することを目的とする。

## 可搬式サウナ等のイメージ



テント型



バレル型



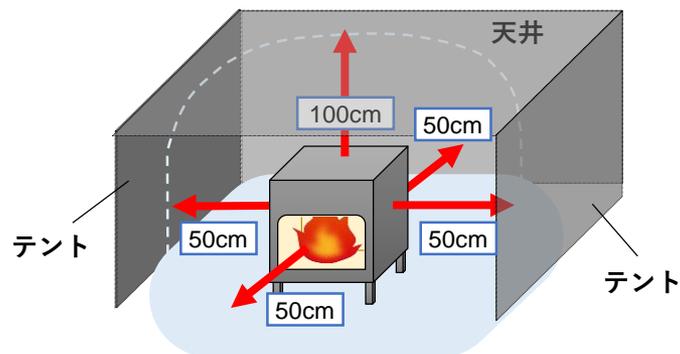
トレーラー型

## 課題

- 現行の消防法令におけるサウナ設備の設置基準は、浴場・宿泊施設等の建物内（サウナ室）に固定式の設備として設置することを想定した基準となっている。
- このため、サウナストーブと建築物・可燃物との離隔距離について、一定の広さを有するサウナ室であれば問題ないが、狭いテント内等への設置に当たって、設置場所の支障になる場合がある。  
(狭いテント内で離隔距離を確保するためには、テントの中心部に設置することとなり、利用者が出入りする際にストーブに接触する危険性がある。)

## 離隔距離のイメージ

(例) 固体燃料を使用するストーブの建築物等及び可燃物からの離隔距離

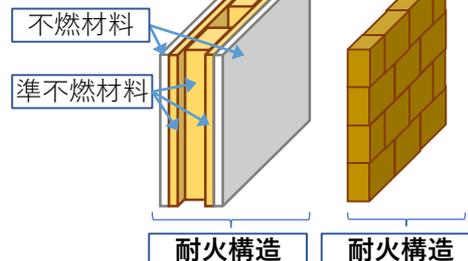


## (補足) 離隔距離を要しない構造

### ① 耐火構造

仕上げを不燃材料かつ、間柱・下地等を準不燃材料

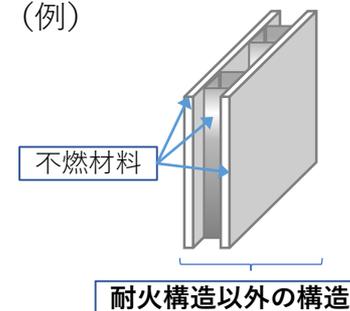
(例)



### ② 耐火構造以外の構造

間柱・下地等を不燃材料

(例)



上記の他、消防庁長官が定める方法により設備ごとに必要な離隔距離を性能試験により定めること（性能規定）も可能。  
(平成14年消防庁告示第1号)

# 可搬式サウナ等の特徴について

## 可搬式サウナ（テント型）の特徴

可搬性	人力での設置・移動が可能
定員	<u>2～4名程度が主流</u> 10人以上が利用できる大型のものもある。
ストーブの種類	<u>薪ストーブ</u> 電気ストーブを使用するものもある。
サウナ内の温度	<u>70～80度を15～20分程度維持</u> 薪ストーブの場合、薪を追加し再加温する必要があるため、自然状態では連続使用はできない。 なお、100度以上の加温を行える製品もあるが、燃料コスト・燃焼の維持が困難なため一般的ではない。
テントの材質	<u>天井：難燃性ポリコットン、側面：ナイロン、窓部：熱可塑性ポリウレタン（TPU）</u>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・屋外に設置され避難が容易</li><li>・テントとサウナストーブが一体として設計されているものが多い（給気口有り）</li><li>・原則、使用時のみの設置</li></ul>

### テント型サウナの例



### テントサウナ® ICOYA（イコヤ）

サイズ（1台）	W1,800×D1,300×H1,750mm （煙突高さ除く）
ストーブ	薪ストーブ 5 kW
重量	約30kg + サウナストーン約20kg
定員	1～3人※連結し定員を増やすことも可能
テントの材質	難燃性ポリコットン、ナイロン、TPU

# 可搬式サウナ等の特徴について

## 半可搬式サウナ（バレル型・トレーラー型等）の特徴

可搬性	簡易な工程で設置・移動が可能
定員	<u>4～6名程度が主流</u>
ストーブの種類	<u>薪ストーブ・電気ヒーター</u>
サウナ内の温度	<u>70～90度を15～20分程度維持</u> 薪ストーブの場合、薪を追加し再加温する必要があるため、自然状態では連続使用はできない。 なお、電気ヒーターの場合は、温度制御盤にて設定温度を自動運転している。 温度ヒューズ付き安全装置が付いている。3時間の切り忘れ防止タイマーが付いている。
外壁の材質	壁・天井：スギ等の木材
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・屋外に設置され避難が容易（バレル型は屋内に設置される場合もある）</li><li>・バレル本体とサウナストーブは一体の製品として販売されているものが多い。（給気口有り）</li></ul>

### 半可搬式サウナの例



### バレルサウナ「ONE SAUNA」

サイズ	W1,800×D1,800×H1,800mm（煙突除く）
ストーブ	薪ストーブ 6 kW 電気ストーブ 5 kW
重量	約800kg
定員	4人～6人
外壁等の材質	t30mm スギ等の木材の実材。

# 可搬式サウナ等の特徴について

## 半可搬式サウナ（バレル型・トレーラー型等）の特徴

可搬性	簡易な工程で設置・移動が可能
定員	<u>4～6名程度が主流</u>
ストーブの種類	<u>薪ストーブ</u> 電気ヒーターを使用するものもある。
サウナ内の温度	<u>70～90度を30分程度維持</u> 薪ストーブの場合、薪を追加し再加温する必要があるため、自然状態では連続使用はできない。 なお、電気ヒーターの場合は、温度制御盤にて設定温度を自動運転している。 温度ヒューズ付き安全装置がついている。
外壁の材質	壁：構造用合板塗装仕上げ、屋根：構造用合板シート防水葺き
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・屋外に設置され避難が容易（バレル型は屋内に設置される場合もある）</li><li>・トレーラーとサウナストーブが一体として設計されているものが多い（給気口有り）</li></ul>

### 半可搬式サウナの例



### モバイルサウナ「メトス アセマ」

サイズ	W2,000×D5,000×H2,130mm（煙突除く）
ストーブ	薪ストーブ 9 kW
重量	約800kg
定員	4人～6人
外壁等の材質	壁：構造用合板塗装仕上げ 屋根：構造用合板、シート防水葺き

# 可搬式サウナ等の特徴について

## 半可搬式サウナ（バレル型・トレーラー型等）の特徴

可搬性	簡易な工程で設置・移動が可能
定員	<u>4～6名程度が主流</u>
ストーブの種類	<u>薪ストーブ</u> 電気ヒーターを使用するものもある。
サウナ内の温度	<u>70～90度を15～20分程度維持</u> 薪ストーブの場合、薪を追加し再加温する必要があるため、自然状態では連続使用はできない。
外壁の材質	壁・天井：外装スプルス、内装アスペン仕上げ
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・屋外に設置され避難が容易（バレル型は屋内に設置される場合もある）</li><li>・焚き口周辺の床は不燃仕上げとする。</li><li>・本体とサウナストーブは一体の製品として販売されている。 （給気口有り、排水口有り）</li></ul>

### 半可搬式サウナの例



### ログサウナ「IGLU SAUNA（イグルーサウナ）」

サイズ	W2,300×D2,300×H2,977mm（煙突除く）
ストーブ	薪ストーブ 5 kW 電気ストーブ 5 kW
重量	約450kg
定員	4人～6人
外壁等の材質	壁・天井：外装スプルス、内装アスペン仕上げ ※平成14年消防庁告示第1号適用製品

## 課題

小規模な可搬式サウナ等では、サウナストーブと建築物・可燃物との離隔距離を確保することが困難

### 可搬式サウナの特徴

人力での設置・移動が可能で、使用時のみに設置される

屋外に設置され、避難が容易

小規模な設備である  
(多くて10人程度)

薪ストーブを用いた設備の場合は、連続使用できない

### 半可搬式サウナの特徴

簡易な工程で設置・移動が可能

屋外に設置され、避難が容易

小規模な設備である  
(多くて10人程度)

薪ストーブを用いた設備の場合は、連続使用できない

### 安全性の検証実験等

可搬式サウナ等に係る  
火災予防対策の見直し

